

令和7年1月29日
県土整備部河川課

報道関係者各位

治水対策検討における「衛星SAR画像」の活用について

県では、令和6年7月25日からの大雨災害を踏まえ、人工衛星で得られた情報から当時の浸水状況を推定し治水対策の検討に活用しています。

新しい技術を取り入れた県として初めての取組であり、検討の状況を下記により公開しますので、取材報道についてよろしくお願いたします。

※ SAR： 合成開口レーダー (Synthetic Aperture Radar)

※ 衛星SAR画像： 人工衛星から地表に発したマイクロ波（電波の一種）の反射波から地表の状況を画像化したものです。昼夜・天候に関わらず観測が可能であり、大規模な浸水状況の把握・推定に有効とされています。（詳細は別添を参照してください）

記

1 実施日時

令和7年2月5日（水） 14:00 ～ 14:30

2 場所

山形県庁 10階 1001会議室

3 公開内容

① SAR技術を活用した浸水状況の把握・推定について

デモと説明：国際航業株式会社

② 衛星SAR画像を活用した治水対策の検討状況

説明：山形県県土整備部河川課流域治水推進室

4 取材申し込み

取材を希望される場合は、2月3日（月）までに社名及び人数を県河川課（023 - 630 - 2686）までお知らせください。

以 上

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【問合せ先】

県土整備部 河川課流域治水推進室

室長補佐 清野

TEL 023-630-2686

[報道監] 県土整備部次長 森谷

大規模災害時における洪水調査の課題

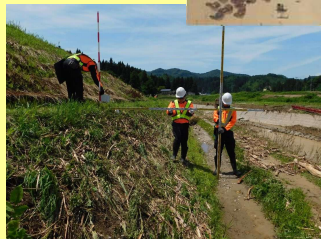
- 洪水による浸水状況の把握については、ドローンや洪水痕跡調査等により実施。
- これらの調査手法は現地作業を必要とし、詳細な状況把握が行える反面、調査できる時間が限られることから、洪水が広範囲となる場合、浸水の全体像を把握することは困難。

洪水調査

従来からの手法

詳細な状況が把握できるが
悪天候・夜間のため、広域的な把握が困難

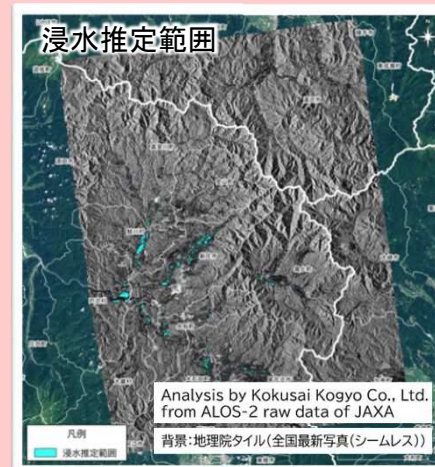
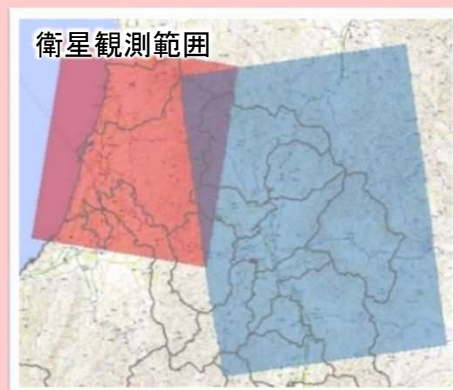
- ヘリによる調査
- 洪水痕跡調査



人工衛星を活用した手法

昼夜・天候に関わらず広範囲に把握できるが、
詳細な状況把握ができない

- 衛星SAR画像による洪水調査



- 各手法の特性を踏まえ、適切に組合せて調査を行うことが有効。
- 令和6年7月25日からの大雨では、被害の大きい箇所についてドローンや痕跡調査を緊急的に行うとともに、広域的な浸水状況について衛星SAR画像の活用により把握。